

西澤仙湖 せいやま 隨筆家、人形研究家。元治元年四月近江國大津生れ、大正二年四月九日歿（八六四—一九四）。舊姓大石、本名末二郎。號琵琶廻家（舎）、雛屋（舎）。在郷中より「團團珍聞」の歌文を投じ、上洛して久保田米徳を知る。團團社社長野村文夫、記者鶯亭金升來郷の折會し、兩人東歸の同行して上京、關係者と交はると、通人江澤海逸とは殊に親交。明治二十二年海逸等と雑誌「こののわ」を創刊、廢刊後も「もつまぶり」、「今模様」と續けた。また寺崎廣業、村田丹陵、益田香遠、笹川崎風、竹内久一等と三勝菴と、幸堂得知、堀野文祿（京の蕘兵衛）等と綺肴會を興し、演藝、遊食會を催した。一方雛人形蒐集家として知られ、四十一年には清水晴風、林若樹、坪井正五郎等と大供會を開き、人形玩具の知識交換を圖るほど斯界に貢獻。大正元年人形一品會を興し、一人一品を持ち寄つて歿年まで二越要販店を公開した。日本畫家西澤竹畝は長女の婿養子で、人形研究と深い関りがある。

『仙湖遺稿集』（大正九年二月）二十五頁西澤木槿庵）、『仙湖隨筆』

（昭和）二年四月十八日坂本書店「半夢草紙」）がある。

